

所在地：長崎県新上五島町

選定年月日：平成24年1月24日

面積：1,508.0 ha

選定基準：二(一)(四)(八))

(1) 概要

五島列島最北部に位置する中通島(なかどおりじま)では、沿岸部の浸食地形に立地し漁業を主な生業とする集住形態の集落と、地滑り地形による比較的緩やかな斜面地に立地し主に農業を営む散村形態の集落といった対照的な集落形態が形成されています。

当地に人が居住した痕跡は縄文時代に遡り、江戸時代後期までは専ら小規模な漁村が営まれています。越前や紀州から移住してきたとされる漁民は、加徳(かとく)と呼ばれる世襲制の漁業権を有し特権的に漁を行ってきました。一方、農業集落は、江戸時代後期に農地開拓・食糧増産のため主に大村藩より農民が移住したことに起源を持ちます。開拓を行いつつ分家をするため末子が本家を相続する、イエワカレと呼ばれる独特の慣行により、居住地や農地を広げてきました。

現在も主に甘藷(かんしょ)が栽培されており、収穫された甘藷は薄く輪切りにしたカンコロに加工されます。カンコロの乾燥には木や雄竹で作られたヤグラが用いられ、ヤグラに隣接してカンコロを茹でるジロが設置されます。自家消費用の甘藷はそのまま家屋の地下に設えられたイモガマに保存するなど、甘藷の栽培から加工・保存まで一連の生産に関わる施設が各戸単位で形成されています。

このように新上五島町北魚目の文化的景観は、厳しい地形条件に適応し、農村及び漁村という対照的な形態を成す集落による価値の高い文化的景観です。



海岸に漁村、山間部に農村が展開する小瀬良集落



上小瀬良集落の段々畑



ジロとヤグラ



江袋教会

（2）選定範囲



- 重要な構成要素：42件

（3）選定による効果

北魚目地域は、町の中心部から離れており交通面も不便なことから、選定前までは交流人口がほとんどない地域で、少子高齢化、学校の統廃合が進み、人口減少が著しい地域となっていました。また、地域の郷土食であるかんころ餅の材料である甘藷（サツマイモ）をつくる人も高齢化し、さらに有害鳥獣の被害が増加傾向にあることから耕作放棄地も増え景観が損なわれている状況となっています。選定後は、観光バスや、レンタカーによる個人客も訪れるようになり、交流人口が増加することで地域の活力を生み出す力になり、まちづくり協議会によるイベントの開催により地域主体となる取組みが行われました。

また、重要文化的景観の価値や魅力を積極的に発信するために江袋地区に交流施設を新設し、その施設を活動拠点とする地域おこし協力隊によるかんころ餅の原料であるサツマイモ掘りやかんころ餅づくりなどイベントを開催することで交流人口の拡大、地域活性化に寄与しています。



（4）保存活用計画などの基礎情報

- 上五島の文化的景観保存調査報告書（平成22年3月、新上五島町）
- 新上五島町北魚目の文化的景観保存計画（平成24年5月、新上五島町）
- 文化的景観整備計画（平成26年3月、新上五島町）
- ホームページ
<https://official.shinkamigoto.net/culturallandscapes.php>

（5）活用事例

事例42-05 ①

写真が得意な地域おこし協力隊による、集落の魅力の再発見と共有

●行政による取り組み

町が新設した交流施設である「江袋交流館」では、写真が得意な地域おこし協力隊が活動拠点として運用を行っています。SNSなどを活用して重要文化的景観内の集落の魅力の再発見と共有を行ってきました。

江袋交流館では、地域おこし協力隊が各集落の見どころを撮影したポストカードや写真を展示しており、来訪者が他の集落にも訪れたいと思えるような働きかけを行っています。また、写真を通して美しい集落の姿を再発見し、住民の方々の生き生きした表情や暮らしの様子が記録・共有されることで、地域の誇りの醸成にもつながっています。

このような撮影活動を通して、地域の方々との関わりが生まれ、人口減少や少子高齢化が続く地域の課題の早期発見や見守り的役割も担っています。

地域おこし協力隊の声

地域のお祭り等を取材したり、住民の方達と行ったイベントとその紹介はとても楽しく、賑わいの創出にも繋がったように思います。



江袋交流館の展示スペース。地域おこし協力隊は、散策を行う際にも写真パネルを持参して解説！

団体等情報：江袋交流館Instagram 江袋交流館 (@e_kouryuukan)

(5) 活用事例

事例42-05 ②

郷土食かんころ餅の継承を通した、景観の保護と担い手づくり

●行政による取り組み

江袋交流館を拠点に活動している地域おこし協力隊が交流人口の拡大を図るためイベントを開催しています。

郷土食であるかんころ餅の材料となるサツマイモの苗植えやイモ掘り、かんころ(干しイモ)づくり、かんころ餅づくりと一緒に体験を実施することで、地域外からも人を呼び込むとともに、かんころ餅づくりを通しての地域への愛着につなげ、担い手づくりのきっかけづくりを行っています。

また、その体験を実施することで耕作放棄地の利活用が図られ、集落景観の保護にも寄与しています。

地元でかんころ作りを続けている方の声

自分も高齢なので、かんころ作りは辞めようと考えていましたが、地域おこし協力隊の方や若い人が体験に来るならもう少し頑張ろうと続けました。さつまいも掘り体験などでは小さい子の笑い声が聞こえてきて、賑やかで良かったです。

団体等情報：江袋交流館Instagram
[江袋交流館 \(@e_kouryuukan\)](https://www.instagram.com/@e_kouryuukan/)

① 地域内での有の

② 目標化の共の有

③ 広域外への

④ 出魅を開引き

⑤ 確保源との運用

⑥ 人育づくり・



江袋交流館でのかんころ作りの紹介



休耕地の再生



さつまいも掘り体験



かんころ餅作りイベント